

國學院大學學術情報リポジトリ

〔紹介〕 嵐義人著『余蘊孤抄—碩学の日本史余話』

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 渡邊, 卓, Watanabe, Takashi メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00000476

紹介

嵐義人著

『余蘊孤抄—碩学の日本史余話』

渡邊 卓

著者の嵐義人氏は國學院大學在籍時代より国史・国文・国法を研鑽し、卒業後は國學院大學日本文化研究所研究員を経て、文部省に入省された。文部省では、教科書調査官（後に主任教科書調査官）として約二十五年間勤務され、その学識を重用された。そして、平成十六年四月から同二十七年三月まで國學院大學神道文化学部教授として母校に戻り、数多の研究・教育活動に従事されるという他に類をみない経歴を持つ。嵐氏の学問は律令法制史、日本文化史、文献考証学など多方面の研究にわたり、その博識ぶりは多くの知るところである。ただし、現在は闘病生活を余儀なくされている。そこで、これまで嵐氏が執筆した各種原稿を、薫陶を受けた者たちが一冊にまとめ随想集として上梓したのが本書である。本書の刊行には、病床にある嵐氏を励ます目的も込められている。

本書は、「日本史」ことばの「玉手箱」「神社所蔵の古典籍」「法制史から見た日本文化」「塙保己一・瀧川先生」の四部にて構成されている。論考としては『国立教育会館通信』『神社新報』に連載されたものや、著者が手がけた「歴史読本事典シリーズ」に寄稿した随筆など、一般の方にも読みやすいものが多く収載されている。しかし、その文章の背後にある、嵐氏の該博な知識と経験とを感じずにはいられない。研究者にも多くの示唆を与える文章ばかりである。本書の副題には「碩学の日本史余話」とあるが、「余話」とするにはもったいなく、嵐氏が「碩学」と称されることを納得しながら読み進めてしまおう。本書の最後に収められた「私の学生時代」からは、嵐氏の学問形成の一端を垣間見ることができ、そこに記された学問に対する姿勢と経験は、真似をしたくともできるものではない。本書によって改めて嵐氏の学問に触れ、その偉大さを痛感させられた。

この随想集は、嵐義人という学者の学識や見識、そして人柄が余蘊なく記されており、学ぶ心を刺激する一冊である。（四六判、三〇四頁、アーツアンドクラフツ、二〇一八年三月、定価二五〇〇円＋税）